

大学時報

UNIVERSITY CURRENT REVIEW

No.373

2017

3

隔月刊



「産官学連携の課題解決型学習 Learning+（ラーニングプラス）に取り組む学生」（愛知大学）

特集 国による給付奨学金創設を機に 奨学制度全体を俯瞰する

座談会 リベラル・アーツ教育は、いま

小特集 リベラル・アーツ教育は普遍か～10年間の振り返り～

明日への試み 関東学院大学

わが大学史の一場面 清泉女子大学

加盟校の幸福度ランキングアップ 中央大学／恵泉女学園大学／芝浦工業大学

クローズアップ・インタビュー 作家 東山彰良さん

日本私立大学連盟



ディドロ＝ダランベール『百科全書』

アダム・スミス自筆の書簡（1769年3月5日付へイルズ卿宛）

[illegible]

follow the old fashion & to live rather at the expense
of other people than ^{off} their own, hence the complaint
of the keepers of the stills, & at the order thereupon
Ad 56:

1855:
 I have enclosed the letter, the closing to be, and
 without proposing to you, or wishing, my interest is still
 more, my imagination wished the little paper with a
 deal of a struggle, place after that, but the super-
 cious of the United Kingdom, may much resemble a
 young seedling, and I have taken you there to see
 of the disease, to complete the death to the other
 who generally follow their own principles, if the
 two diseases are upon the same, in which case, the
 one has always an after the happiness of the other, the
 other, before the world is yet to be always done, the
 greatest dread of people is, which, which, however
 has not been able to avoid, these indications
 have always been suspected to pass, and I
 fear to have upon the country, which I have not
 his fears, as his indications, then, which I have not
 say, a great deal more, as the duty to get the
 ship, but an affair, I have already said, and
 would rather for my own part, but the said
 nation, of your most respectable President, the rep-
 -ed to the results of limited war, that all the
 affairs, appears that he has enjoyed his best
 upon either, or both the other two, have the
 power to be, with the highest esteem, assured
 M. Sir,
 J. Schöps

My dear friends
your
most obedient
servant Adam Smith





知を愛し、世界へ。



愛知大学は創立70周年を迎えました



名古屋キャンパス

愛知大学は、「世界文化と平和への貢献」「国際的教養と視野をもった人材の育成」「地域社会への貢献」を建学の精神とし、1946年に中部地区唯一の旧制法文系大学として誕生しました。その前身ともいえる東亜同文書院(のちに大学)は、1901年中国上海に設置され、日本の海外高等教育機関としてはもっとも古い歴史を持ちます。2017年3月には、名古屋駅南にある名古屋キャンパスの第2期工事が完成し、愛知県の名古屋市、豊橋市に3キャンパス、7学部、1短期大学部、6研究科、法科大学院を擁する総合文系大学として有為な人材が輩出しています。



愛知大学創立者 本間 喜一



豊橋キャンパス(愛知大学記念館)

2017年春、都心型キャンパスが完成。
新たな充実した学びの空間が広がる。

- 法学部
- 現代中国学部
- 経済学部
- 国際コミュニケーション学部
- 経営学部
- 大学院 (5研究科 2017年4月移転)

- 国際問題研究所
- 中日大辞典編纂所
- 経営総合科学研究所
- 国際中国学研究センター (ICCS)
- 国際ビジネスセンター

名古屋キャンパス

NAGOYA CAMPUS



名古屋キャンパスは、日本三大都市圏の一つで中京圏を代表する都市である名古屋市のなかでも、中央リニア新幹線開通にむけ大規模な開発がすすむ名古屋駅エリアの一角、名古屋市が国際歓迎・交流の拠点として整備をすすめ、政治・経済・文化・国際交流などさまざまな情報発信力をもつ「ささしまライブ24地区」に立地する2012年開校の新しい都市型キャンパスです。20階建ての本館（研究棟）・講義棟・厚生棟には、グローバル時代に対応した外国語習得、海外文化に触れることのできるグローバルラウンジ、学生の自主的グループ学習、プロジェクト学習をサポートするラーニングコモンズ、国際会議や学会、学内の各種イベントに利用できる600人収容、4か国語同時通訳ブースを備えたグローバルコンベンションホール、ディスカッションルームのある図書室、室内スポーツに対応するアリーナなど様々な設備を備えています。

豊橋キャンパス

TOYOHASHI CAMPUS

豊かな自然と重厚な歴史。

教育と研究を通じ、地域社会と文化への貢献を。

- 文学部
- 地域政策学部
- 短期大学部
- 大学院

● オープンカレッジ ● 愛知大学孔子学院

- 総合郷土研究所 ● 中部地方産業研究所 ● 人文社会学研究所
- 東亜同文書院大学記念センター ● 三遠南信地域連携研究センター



豊橋キャンパスは1946年の創立以来の歴史を持ち、豊かな緑に恵まれた広大なキャンパスです。創立時に旧日本陸軍の施設を利用したことから、学内には明治時代の歴史的建造物や、史跡も多数あり、重厚な歴史や文化を感じることができます。その余裕のある敷地に、最新の教育研究施設として、ICTに対応した情報メディアセンターや、専門機材の整ったメディア芸術スタジオ、地域研究に活用できるGIS実習室などがあります。また、広大なグラウンドや体育館、弓道場、学生会館など学生のためのスポーツ・文化・福利厚生設備も充実しています。立地する豊橋市は愛知県東部の中核都市であり、自動車の輸入台数国内トップの三河港を中心とした産業が発展しており、農業産出額も全国トップクラスを誇っています。そのような魅力のある街で学生生活を送ることで、感受性豊かな人間として成長することができます。

実績ある法曹人養成と、
市民の生涯学習ニーズに応える地域貢献の拠点。

○ 法科大学院

● オープンカレッジ ● 愛知大学孔子学院 ● 法人本部機能

車道キャンパスは名古屋市の交通至便な市街地にあります。その立地条件を活かし、高度職業人養成として法科大学院を設置しています。法科大学院は手厚い少人数教育を徹底し、次代を担う法曹の養成を行い、全国の法科大学院の中でもトップレベルの合格率を誇っています。また、社会に開かれた大学作りをめざして、広く一般の皆様を対象とした生涯学習施設としてのオープンカレッジも開校。外国語に習熟すること、今まで持ちえなかったスキルを身につけること、文化や教養に触れることなど多彩な講座構成で運営しています。

車道キャンパス

KURUMAMICHI CAMPUS

首都圏における愛知大学生の就職活動を
バックアップする拠点。

東京霞が関オフィスは、東京都の中でも中心地である霞が関にあります。交通至便な立地から学生・教職員・同窓生のための首都圏における情報収集・発信拠点となっています。なかでも、就職活動へのサポートは充実しており、首都圏の行政や企業に詳しい専従職員が求人情報の提供から、就職活動の相談やアドバイス、書類作成の添削などを行っているほか、自由に使えるパソコンや休憩のためのソファベッドも用意されています。多くの学生がこのオフィスを利用し、首都圏での就職活動を成功させています。

東京霞が関オフィス

TOKYO KASUMIGASEKI OFFICE

〔名古屋キャンパス〕

〒453-8777

名古屋市中村区平池町4丁目 60-6

〔豊橋キャンパス〕

〒441-8522

愛知県豊橋市町畑町1-1

〔車道キャンパス〕

〒461-8641

名古屋市東区筒井2丁目10-31

〔東京霞が関オフィス〕

〒100-0013

東京都千代田区霞が関3-2-1 霞が関コンゲート西館37階

大学時報

No.373

2017.3



「知を愛する者が集う 大学」として

川井 伸一 ● 愛知大学理事長・学長

愛知大学は、戦前、中国上海にあった東亜同文書院等の教職員を中心に、「知を愛する者が集う大学」として1946年11月に創立された。「世界文化と平和への貢献」「国際的教養と視野をもった人材の育成」「地域社会への貢献」が建学の精神である。この精神を時代の要請に適應しつつ、広い教養と自立的な思考力を備えたグローバル人材の育成および地域貢献を教育の柱として推進したい。

少人数ゼミ教育によるグローバル市民の育成

山寄 哲哉 ● 武蔵大学学長

はじめに

文部科学省の統計によると、2015年度の日本の大学数は779である。このうち私立大学は604校であり、全体のほぼ8割を占める。

国立大学は最近、「世界水準」「特色ある教育研究」「地域貢献」の三つの枠組で類型化されたが、わが大学がこのどれに当てはまるかと思うと、はて?、と考え込まざるを得ない。私立大学は、それぞれにオリジナリテイのある建学の精神や理念をもち、その形態も多様である。604の私立大学の中で、本学はどのように位置付けられるのか。

文系か理系か総合大学かという区分では、文系のみ3学部からなる大学である。規模では、文部科学省の直近の区分を用いると「小規模大学」となる。

都市か地方かといえば、東京都練馬区にあるが、ビル型大学ではなく、構内には往年の水路を活用した小川が流れ、区の記念樹木がある、都心にしては緑豊かな大学である。鉄筋3階建の最も古い校舎は、1923（大正12）年に竣工し、関東大震災を生き延びた区内で最も古い鉄筋建築で、昭和初期竣工の大講堂と共に、区の登録文化財に指定されている。研究教育の面でいわゆる「世界水準」を目指しているわけではないし、芸術や語学や医療などといった「特色ある教育研究」に特化した大学でもない。では、地域に密着した「地域貢献」型の大学かといわれると、そうでもない。実学志向か研究志向かと問われるといずれでもなく、建学以来、リベラルアーツに基づく人格教育に力を入れてきた。

大都市圏にあって、文系の複数学部からなり、収

容定員4000名未満で、緑に囲まれた男女共学の大学を、本学以外に私は知らない。開学以来「ゼミの武蔵」と呼ばれ、近年は小規模ながらグローバル教育への展開に新しい一步を踏み出した本学の特徴について、建学の三理想から現在の第三次中期計画策定まで振り返ることによって、随想してみたい。

1 旧制武蔵高等学校と建学の三理想

武蔵大学の母体は、1922（大正11）年に開学した、日本で最初の七年制高等学校、旧制武蔵高等学校である。この高校を語るには、創立者の根津嘉一郎（1860－1940）について触れざるを得ない。根津は山梨県の豪商に生まれ、さまざまな事業を経営し、特に東武鉄道や南海鉄道の礎を築いて、いわゆる甲州財閥を形成した人物である。根津が教育を通じて国家に貢献する志を抱いた端緒は、1909（明治42）年に渋沢栄一率いる渡米実業団に参加し、約3カ月をかけてアメリカを視察した経験にあるとされる。この視察で、根津はロックフェラーをはじめ多くのアメリカの実業家と親交を深めることになる。そして、彼らが大学や美術館などを設立

して社会貢献や利益還元をしていることを知り、これに深く感銘を受け、帰国後、教育・文化事業に情熱を傾けることになった。

1918（大正7）年に第二次高等学校令が公布されると、根津は識者を集めて会議を重ね、1921（大正10）年に財団法人根津育英会を設立し、武蔵高等学校の認可を受ける。初代校長であった一木喜徳郎が最初の入学式に際して訓示した内容を原型として、昭和初期に次の「建学の三理想」が定められ、武蔵学園の「三理想」として今日まで継承されることになる。すなわち、「東西文化融合のわが民族理想を遂行し得べき人物」「世界に雄飛するにたえる人物」「自ら調べ自ら考える力ある人物」である。第一次世界大戦後の帝国主義の時代にあつて、いかにして日本のリーダーを育てるか、といった時代精神を体現する三理想である。いま改めて振り返ると、既に90年以上前に「グローバル人材の育成」や「アクティブ・ラーニング」の重要性を理想として掲げていたのは、リベラル派の帝大教授であり、文部大臣や内務大臣を歴任した一木の慧眼であつたといえよう。

2 「ゼミ」の武蔵の誕生

戦後の学制改革によって、旧制武蔵高等学校は武蔵高等学校中学校と武蔵大学に再編される。大学の設立に関しては、紆余曲折があった。当初は、七年制高校という出自の似た東京の4校、すなわち、学習院・成蹊・成城と武蔵で、各校がカレッジとなる連合大学を設立しようという動きがあった（学習院は正確には八年制の宮内庁所轄の学校）。結局、申請までには構想がまとまらず、個別の大学として歩み出すことになるが、この関係は、「東京四大学」という形で、1950（昭和25）年から「四大学運動競技大会」を開催するなど、今日まで継承されている。同様の出自をもつ関西の甲南大学を含めると、五つの学園が、旧制時代の少人数教育で「リベラルアーツ」を志向する大学として、多くの私立大学の中で独自の地位を占めているように思う。

さて、新制大学として再出発した武蔵大学は、経済学部経済学科のみの単科大学として設立される。初年度（1949）の入学定員は約100名で、第1期の正規の卒業生は68名に過ぎない。最初の10年

間の卒業生は合わせても1000人台である。1959（昭和34）年に経営学科を増設、さらにその10年後の1969（昭和44）年に人文学部（欧米文化学科・日本文化学科・社会学科）を開設して、ようやく複数学部を持つ大学となり、学生数も3000名規模となった。その後、1990年代の初頭に金融学科を増設、1998（平成10）年には人文学部社会科学から社会学部が独立して、現在の3学部体制が確立する。2004年にはメディア社会学科を開設し、現在、3学部8学科、在籍学生数4000人台半ばの、今なお小規模の大学として運営されている。

新制大学として発足した当初から、初代の学長と学部長には、他大学にはない「少数精鋭主義」教育を標榜する大学をつくり上げるという構想があった。学長は哲学者の宮本和吉、経済学部長は鈴木武雄。2人は、旧制京城帝国大学の教授である。宮本は、最初の入学式で「視野の広い、世界人としての日本人、自ら調べ自ら考え、批判的精神を失わない日本人をつくり上げる」と述べ、その具体策として鈴木学部長が「少数精鋭主義」を基本とする教育方針を

前面に打ち出したのである。これが、1年次から4年次まで必修のゼミナール制であり、「ゼミの武蔵」の誕生である。鈴木は回想録の中で、武蔵大学が国立、私立の数ある大学のなかで独自性を示すためには「少数の精鋭な学生を手づくりで教育する」という看板を掲げる必要があったと述べており、これは武蔵を「日本のロンドン・スクール・オブ・エコノミクス」にしたいという鈴木の本心ともつながっていた。

今でこそ多くの大学でゼミナール制が取り入れられているが、開学から一貫して少人数ゼミ教育を実践してきたことは本学の最大の誇りといってよい。

その具体的内容や成果については、2016年の『大学時報（367号）』で、前学長の清水敦が紹介しているの、そちらを参照されたい。

3 新しいアイデンティティの模索

旧制高校の三理想は、絶えず振り返るべき建学の理想として入学式などで紹介されてきたが、21世紀にふさわしい大学の理念を再設定すべきという議論が高まり、2006年に、大学の基本的な理念を次のように再構築した。

「武蔵大学は、21世紀の新たな時代と社会において大学に求められる知の創造、継承と実践にその教育研究活動を通じて貢献すること（「知と実践の融合」）を基本的な理念とし、知的実践の基盤となるリベラルアーツを重視した教育に重点を置く大学としてその社会的使命を持続的に果たしていくことを目指す」。

この理念を達成するために、建学の三理想を尊重しつつ、大学の新しい教育の基本目標を策定した。すなわち「一・自ら調べ自ら考える（自立）」「二・心を開いて対話する（対話）」「三・世界に思いをめぐらし身近な場所で実践する（実践）」である。建学の理想にあった「自調自考」を筆頭に位置付け、「ゼミの武蔵」の原点とした。次いで、20世紀末から若年層におけるコミュニケーション力の低下が顕在化した背景もあり、ゼミの核心でもある「対話」を二つ目の基本目標に定めた。最後に、「三理想」にあった「東西文化融合」と「世界雄飛」の含意を、「Think Globally, Act Locally」という世界的な環境保護運動の標語に込め、「実践」とした。以来、建学の三理想を原点とした「自立」「対話」「実践」、そしてそれらを包括する「知と実践の融合」が教育の基本目標、

基本理念となる。

これらの新しい理念のもとでカリキュラムの大幅な改革が行われ、大学共通の「総合科目（旧教養科目）」にもゼミ的な少人数授業が配置され、「学部横断ゼミナール」といったPBL型の新しいゼミもスタートした。こうしたゼミを中心とした授業改革は、本学の得意とするところでもあり、これら以外にも学部共通のオリジナルのゼミテキストの作成や1年次から使用するキャリア指導用のガイドブックの発行など、さまざまな改革が行われた。

4 「ゼミの武蔵」のグローバル教育

2010年代に入ると、社会のグローバル化やボーダーレス化の進行は一層急速になった。三つの教育目標のうち、「自立」と「対話」については新カリキュラムにおいて十分に達成できる手応えがあったが、「実践」、とりわけ「世界に思いをめぐらし」という箇所について、「グローバルに考えるだけでよいのか」、「建学の三理想にあった〈世界雄飛〉を、いま一度思い起こすべきではないか」といった議論が内外からわき起こった。そこで、まず武蔵学園全体

で、2014年春の理事会において、創立100周年に向けた経営戦略として「まなざしを世界に向け、21世紀の課題を担う国際人を育てる学校を目標とする」という「理事長ドクトリン」が採択され、同年秋の理事会では「〈世界に開かれたリベラルアーツの学園〉となることを目指す」と題した学園長プランが定められた。これらを受けて、第三次中期計画（2016～2021年度）において、2022年の学園100周年に向けて大学の目指す新しいビジョンを「異文化を理解し未来を創造する教養あるグローバル市民の育成」創立100周年に向け原点に立ち返り、建学の三理想の継承と未来への変革を目指す」とした。

この中期計画によって、新ビジョンの下、各学部の特徴を生かしたグローバル化に向けた新しいプログラムを開始することになった。まず、中期計画が始まる前年の2015年に、経済学部において「ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラム」をスタートした。これは、ロンドン大学の認定を受けた本学教員が、ロンドン大学の「基礎教育プログラム」と「国際プログラム」の授業を

武蔵大学で英語で行い、約4年間で両大学の学位を取得するというものであり、日本の大学では初めての試みである。通常のダブル・ディグリーとの大きな違いは、留学することなく、武蔵で学びながらロンドン大学の経済経営学士が取得できることである。

このプログラムはロンドン・スクール・オブ・エコノミクスが提供しており、大学設立時の初代学部長の夢が、形を変えて成就しつつあるとみることもできる。

人文学部と社会学部では、2017年度から、それぞれ「グローバル・スタディーズコース」と「グローバル・データサイエンスコース」を開設する。

前者は、語学力を徹底的に鍛え、グローバル時代の世界と日本の文化について深く学び、外国語で表現できるようにすることを目的とするプログラムである。このうち「英語プログラム」は、1年次からネイティブの教員のゼミに所属し、英語で現代的・歴史的な問題を考え、研究成果を発信するトレーニングを行う。英語以外のプログラムは、それぞれの専攻言語と英語を習得して「トリリンガル」となることを目指す。

社会学部の新コースは、ネット空間に蓄積されたビッグデータを英語で社会的に分析できる能力を育成する。3学部とも、プログラムやコースに所属する学生は、1年次の第1クォーターで英語による思考法を学び、第2クォーターで6～8週間、海外で英語の特訓を行って後期からの授業に備える。

また、こうした特別プログラムやコースに属さない学生に対しても、テンブル大学ジャパンキャンパスとの協定に基づいて、日本に居ながらにして、米国のスタンダードな授業を受けることができるし、以前からの協定留学の強化や海外インターンシップの拡充を行っている。

おわりに

これらの新プログラムを着実にスタートさせ、継続していくことが今の私に課せられた使命だと認識している。米国では破天荒な大統領が誕生し、政治や経済の先行きは不透明感が増している。しかし、こうした不確実で見通しのきかない時代にあつてこそ、各大学が、それぞれの教育の原点に立ち返ったオリジナリティのある教育を推進すべきだと思う。